

*発熱と内科の病気（疾患）

内科受診される方の中で発熱を伴った症状で受診される方も多いかと思えます。多くの場合、肺炎が見つかったり、尿の検査で尿路感染症であったり、胆石に伴う胆嚢炎や膵炎であったりして比較的早期に発熱の原因にたどり着けることもありますが、時には原因にたどり着くまで日時を要したり原因が見つからない場合もあります。

人体の体温は本来、35～37度で保たれ早朝に最低値、夕刻に最高値となり日内変動は0.5度、1度以上は異常となります。健康成人では早朝37.2度以上、夕方37.7度以上は発熱、低体温は35度以下となります。女性は排卵後から月経までに0.6度の上昇があり、小児は成人より概ね0.5度高くなります。

急性発熱

2週間以内：37.1～38度は軽度微熱、38.1～38.5度は軽度発熱、38.6～39.0度は中等度発熱、39.1度以上は高熱となります。発熱は白血球から産生される物質、細菌、ウイルス由来物質が作用し脳の血管内皮細胞から産生される物質が体温中枢を刺激し発熱が起こります。

熱の原因が不明なもの

- 感染症(16～36%)
- 腫瘍性疾患(7～31%)
- 非感染性炎症性疾患：膠原病など(16～24%)
- その他：潰瘍性大腸炎やクローン病他(4～22%)
- 不明(7～51%)



何かお困りの症状がありましたら内科を受診ください。内科はあらゆる病気の窓口と考え日々診療にあたっております。病気によっては他科に紹介、また適切な他の病院への紹介など適切な医療を提供する努力を行っており、今後も継続してゆく所存です。

これからも内科を病院の窓口と考えお気軽にご利用いただければ幸いです。

医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院 副院長・第2内科部長 畑 一